

DYNAMIS

Vol.1

ことばと文化

発刊の辞

論 文

- 山口 巖 再読『マライ・ポリネシア諸語』 1
- 湯浅 博章 19世紀におけるドイツ語統語論の変遷について
—統語論から見たDUDEN文法前史—15
- 越智 誠一 アイヌ語の構造に関する一試論
—内容類型学的観点から—27
- 高梨 克也 「のだ」の表す命題間の関係と課題設定42
- 樫和 千春 時間表現における「先」について59
- 信田 千佳 文脈における比喻表現の理解について68
- 松尾 亮 言語行為の慣習性について
—発語内行為の画定可能性との関わりにおいて—80
- チャンティマー・チャンタラー
「昼御飯を食べたか？」に対する2つの
否定形の使い分け96
- 李 長波 皆川淇園の言語研究
—その言語観を中心に—113
- ホアン・レオン
Talking with the Loa:
Caribbean Gods for Modern U.S. Writers135
- 資 料
泉井久之助著書論文目録（研究室編）150

1997

京都大学大学院人間・環境学研究科
文化環境言語基礎論講座

発刊の辞

このたび我が文化環境言語基礎論講座で、論集というほどのものではないにしても、それぞれが論文を書くよすがともなればとの想いで、小冊子を出すことにした。出すからには名前がなければならぬ。皆で苦吟したがなかなか決まらない。結果 *DYNAMIS* とすることになった。デュナミスとは、言うところの「潜勢」であり、エネルギーを生み出す底のものである。これはただエネルギーに先立つというものではない。それは力である。既にしてそこには神気が動いている。たとえばじめは幽かな揺らぎであっても、揺曳する神気がおのずから凝り、やがては「顕勢」となって奔出するであろう。少なくともそのような期待を抱いて発刊の辞としたい。終わりに、ウェルギリウスのひそみになって一言。

Labor omnia vicit / improbus (Georgica 1, 145-146)

山口 巖

1997年3月

洛東研究室にて

編集後記

なんだかんだといいながら、実を言えば思いの外に『デュナミス』の完成は早かった。これは \LaTeX によって組版したが、専らこれに当たってくれたのは、博士課程の越智君である。労を多としたい。この第1号は講座の全員が執筆したという点でも、画期的なものであるといえる。なお英文のチェックに当たって下さったのは、今年から助教授として当講座にお迎えしたレオン先生である。

執筆して下さった湯浅先生は、企画の段階で当講座の助手であったが、今年から姫路独協大学に講師として御栄転になった。代わって当講座の助手としてお迎えしたのが、李先生である。奇しくもここで新旧の助手が、共同して執筆に参加したことになる。

年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからずというが、人が変わってもこの雑誌が引き続がれ、益々発展する象徴ともなり、慶賀すべきことであるといえよう。今後の発展を祈るのみである。

DYNAMIS (デュナミス) Vol.1

1997年4月22日 印刷

1997年5月1日 発行

発行 京都大学大学院人間・環境学研究科
文化環境言語基礎論講座
山口 巖 研究室
〒606-01 京都市左京区吉田二本松町
電話 (075)753-6726

編集 越智 誠一

印刷所 (株) 田中プリント

〒600 京都市下京区松原通麩屋町東入
電話 (075)343-0006

(非売品)

ΔΥΝΑΜΙΣ

Vol.1

Language and Culture

PREFACE

ARTICLES

- Iwao YAMAGUCHI Rereading the Late Prof. Izui's Work: *The Malayo-Polynesian Languages — Their Comparison and Genealogy*— 1
- Hiroaki YUASA Zum Wandel der deutschen Syntax im 19. Jahrhundert 15
- Seiichi OCHI An Essay on Structure in Ainu
— From the Viewpoint of Contensive Typology— 27
- Katsuya TAKANASHI On Japanese NODAs: Their Expression of Relations
Between Propositions and Setting up Problems 42
- Chiharu NARAWA On *saki* in Japanese Temporal Expressions 59
- Chika NOBUTA On the Understanding of Figurative Language in Context ... 68
- Ryo MATSUO On the Conventionality of Speech Acts: Their Relation
to the Delimitation of Illocutionary Acts 80
- Jantima JANTRA A Difference in the Usage of *tabenakatta*
and of *tabeteinai* in Japanese 96
- Changbo LI On the Linguistic Studies of Kien Minagawa:
His Perspective on Language 113
- Joan LEÓN Talking with the Loa:
Caribbean Gods for Modern U.S. Writers 135
- MATERIAL
- A List of Prof. Hisanosuke IZUI's Works 150

1997

Department of Language Activities in Cultural Environments
Graduate School of Human and Environmental Studies
Kyoto University